

第 1 学年国語科学習指導案

単元名 思考力や想像力を働かせながら読む

教材名 「少年の日の思い出」(東京書籍・光村図書 中学校 1 年生)

1 単元について

佐賀県の中学 1 年生の実態として、平成21年度全国学力・学習状況調査の結果から、「主人公の行動や心情を描写した文章の表現の工夫をとらえること」「文学的な文章の表現の工夫をとらえること」が課題としてあげられる。また、平成22年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から、「情景などの表現に着目して読むこと」にも課題が見られた。

生徒は、小学校や中学 1 年生の文学的な文章の学習において、場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容をとらえる学習をしている。しかし、文学的な文章の表現の特徴についてとらえ、その工夫や効果について自分の考えをもつという学習活動の経験は少ない。このような課題を受け、本単元では、大人になった「僕」と「エーミール」に少年の日のことを語らせる「仮想対談」という言語活動を通して、「思考力や想像力を働かせながら読む力」「表現の工夫とその効果について自分の考えをもつ力」を身に付けさせることを目指す。

「少年の日の思い出」の登場人物は学習者と同世代である。そのため、生徒自身が話の内容を自分のことのように受け止めることが予想される。また、話の展開、情景や心情の描写に工夫がされていて、登場人物の心情に迫りやすい。さらに小説の内容は、人間の生き方などについて考えるきっかけになるものであり、書かれている内容を読み取り、それに対する自分の考えを広げていくことに適している。中学 1 年生のまとめの段階に学ぶ文学的な文章としては適切な教材である。

本単元では、「仮想対談」を言語活動として位置付け、記述を基に心情を読み取る必然性をもたせるようにする。その上でまず、展開や情景の描写、登場人物の描写などの小説の記述を根拠にして、内容を正確にとらえさせる。そして、文章の特徴をとらえた上で、表現の工夫や効果について個人で考えさせ、交流により個人の考えを深めさせたい。また、「仮想対談」の最後の情景を自分なりに考えさせ、思考力や想像力を働かせて読むことや表現の特徴や工夫、その効果についてとらえさせるようにしたい。

2 単元の指導目標

- (1) 人物の描写や情景の描写に注目させ、内容を正確に読み取ることができるようにする。
- (2) 文章の構成や展開、表現の特徴や工夫について、自分の考えをもつことができるようにする。

3 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
表現とその効果を踏まえ、心情を読み取る言語活動を通じた指導〔C読むこと〕		
1 表現とその効果に関心をもち、人物描写や情景描写に注目して、人物の心情を読み取るうとしている。	1 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解している。〔C読むこと(1)ウ〕 2 文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもっている。〔C読むこと(1)エ〕	1 事象や行為などを表す多様な語句の働きについての理解を深め、描写に注意して読んでいる。〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〕

4 指導と評価の計画(全 9 時間)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価の方法
一	1	1 単元の学習計画を知り、学習の見通しをもつ。 2 学習課題を設定する。 3 本文を通読し、おおまかな内容をとらえる。 4 初発の感想を書く。	学習計画表を用いて、単元の指導過程を確認し、学習の見通しをもたせる。事前に各自が記入したアンケートの記述を参考にし、単元で身に付けたい力について個人で考えさせる。単元の中で「仮想対談」を行うことを告げ、記述を根拠にして心情を読んでいく活動の必然性を生徒に感じさせる。登場人物についての感想や表現についての気づきを簡単に書かせておく。	ア-1 【ワークシート の記述】 【学習計画・自己評価表の記述】
二	2	5 登場人物のおおまかな人物像や関係をとらえる。	「僕」「エーミール」の年齢、熱中していたことをおさえる。また、現在の「客」が過去の「僕」であることを確認する。	

	6 本文を ~ の4つの場面に分ける。	時間や出来事に着目させ、大きく4つの場面に分けることを指示する。	
	7 の場面の内容を読み取る。	情景描写の特徴について、生徒用引きを参考にして、気付きを書かせておき、7時間目の表現の特徴の学習時に振り返ることができるようしておく。	イ-1 【ワークシート の記述】
3	8 の場面の人物の心情を読み取る。	本文の記述を根拠にさせ、登場人物の心情を考えさせる。「僕」と「エーミール」の人物像をとらえさせる。	イ-1 【ワークシート の記述】
4	9 の場面の人物の心情を読み取る。	本文の記述を根拠にさせ、登場人物の心情を考えさせる。盗みを犯すまでと犯した後、盗みの心情の変化をとらえさせる。	イ-1 【ワークシート の記述】
5 6	10 の場面の人物の心情を読み取る。	本文の記述を根拠にさせ、登場人物の心情を考えさせる。「僕」と「エーミール」が対峙したときのそれぞれの心情をとらえさせる。よ家の帰り、収集したちょうをつぶすときの「僕」の心情に迫らせる。	ウ-1 【ワークシート の記述】 イ-1 【ワークシート の記述】
7	11 表現の特徴や工夫について自分の考えをもつ。	補助資料、ワークシートの記述などを手掛かりにさせ、表現の特徴や工夫に気付かせ、それについて自分の考えをもたせる。交流により、個人の考えを深めさせる。	イ-2 【ワークシート の記述】
8	12 仮想対談の内容を個人で考える。	今まで読み取ってきたことを利用して、仮想対談を考えさせる。	イ-1 【ワークシート の記述】
	13 できあがった仮想対談をグループで読み合い、友達の対談内容を参考に、各自が考えたものを見直す。	グループで話し合わせることで、考えを深めさせたり、よりよい内容や表現に気付かせたりする。	
	14 見直した対談内容を基に、2人が最後に別れる場面の会話とその会話に合う情景を考える。	見直した対談内容を基にして、2人が別れる結末の場面がどうなるか考えさせ、想定した結末に合う会話と情景をまとめさせる。情景を考える際には、7/9時に学習した表現の特徴や工夫を利用するように指示する。	
三	9 15 各自が考えた別れの場面の会話と情景を発表する。	グループの中で、最後の情景について発表し合い、意見の交流をさせる。	イ-2 【生徒観察・ワークシート の記述】
	16 各自が考えた別れの場面の会話と情景について、グループで意見の交流をする。	想定した別れの会話に最も合っている情景描写をグループで選ばせ、なぜそう判断できるのか話し合うことで意見の交流をさせる。	
	17 学習を振り返る。	自己評価表を使って、単元の学習を振り返らせる。	

5 - 1 1 / 9 時の指導計画

(1) 指導目標

- ・単元の学習の見通しをもたせる。
- ・本文のおおまかな内容をとらえさせる。

(2) 展 開

	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 〔Cの状況にある生徒への手立て〕
入	1 単元の学習計画を知り、学習の見通しをもつ。 2 学習課題を設定する。	学習計画・自己評価表	学習計画・自己評価表を用いて、学習の見通しをもたせる。 単元に入る前に各自で記入させておいた事前アンケートの記述を参考にして、自分の課題を考えさせるようにする。 単元の中で「仮想対談」を行うことを告げ、記述から読み取った心情を利用することを意識させる。	
	単元の学習に見通しをもち、本文のおおまかな内容をとらえよう。			
展	3 本文を通読する。		C D や教師の範読を聞かせ、新出漢字や難解な語句に印を付けながら読むよう指示する。	
開	4 「僕」「エーメール」についての簡単な感想と表現の特徴や工夫についての気付きを書く。	ワークシート	それぞれの項目に対して、読後の感想と気付きを書かせておく。 表現の特徴や工夫については、内容の読み取り後に学習するので、気付いたらメモするように指示しておく。	ア - 1 表現とその効果に関心をもって読後の感想や気付きをまとめている。 【ワークシートの記述】 【学習計画・自己評価表の記述】
ま	5 本時の振り返りをし、自己評価をする。	学習計画・自己評価表	本時の学習内容を振り返らせ、学習計画・自己評価表に記入させる。	
と	6 次時の見通しをもつ。		次時は、 の場面を学習することを予告する。	
め				

5 - 2 2 / 9時の指導計画

(1) 指導目標
現在の「客」の心情を、記述を根拠にして読み取らせる。

(2) 展開

	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 Cの状況にある生徒への手立て
導 入	1 本時の目標を確認する。 2 前時の学習内容を思い出す。	学習計画・自己評価表	本単元、本時の目標について確認させる。 ワークシートに記入した初発の感想を手掛かりにして、おおまかな内容を確認させる。	
	「客」の心情を読み取ろう。			
展 開	3 登場人物の関係をとらえる。 4 本文を4つの場面に分ける。 5 の場面の内容を読み取る。 (1)「客」の幼年時代の思い出に関する記述に蛍光ペンで線を引く。 (2)「客」は、現在、幼年時代の自分の思い出についてどう思っているか考える。 (3)なぜ、思い出を語ろうと思ったのか考える。 (4)(3)について班で話し合い、意見をまとめて発表する。	ワークシート	「僕」「エーミール」について、年齢・夢中になったこと、現在の「客」が過去の「僕」であることを押さえる。 時間、出来事に着目させ、全体を4つの場面に分けさせる。 〔光村図書〕 ...P154 3行目～ P156 12行目 ...P156 13行目～ P159 17行目 ...P160 1行目～ P163 10行目 ...P163 11行目～ P166 16行目 印を付けたところを発表させ、全員で印を付けた場所について確認する。 印を付けた記述を手掛かりにして、ワークシートに自分の言葉で書かせる。 〔手掛かりとなる記述〕 ・熱情的なちょうの収集家 ・けがす ・恥ずかしい (2)でまとめた考えと「客」の気持ちの変化が分かる記述を手掛かりにさせる。 〔手掛かりとなる記述〕 ・薄暗い夕方、静けさ ・同じ趣味の友人	イ - 1 文章の描写や登場人物の言動の記述から、「客」の心情を自分の言葉でまとめている。 【ワークシート の記述】 客のセリフに注目させ、その中から思い出に関する言葉を探させる。
	ま と め	6 本時の振り返りをし、自己評価をする。 7 次時の見通しをもつ。	学習計画・自己評価表	本時の学習内容を振り返らせ、学習計画表に記入させる。 「僕」と「エーミール」の人物像を読み取ることを告げる。

5 - 3 3 / 9 時の指導計画

(1) 指導目標
「僕」と「エーメール」の人物像を読み取らせる。

(2) 展開

	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 C の 状 況 に あ る 生 徒 へ の 手 立 て
導 入	1 本時の目標を確認する。 2 本時に学習する場面を確認する。	学習計画・自己評価表	本単元、本時の目標について確認させる。 本時から過去の場面を読み取ることを確認する。	
	「僕」と「エーメール」の人物像を読み取ろう。			
展 開	3 の場面の内容を読み取る。 (1) 「僕」のちょう集めの様子が書かれている部分に蛍光ペンで線を引く。 (2) 蛍光ペンで印を付けた部分を根拠にして、「僕」の人物像をとらえる。 (3) 「エーメール」にすることが書かれている部分に蛍光ペンで線を引く。 (4) 印を付けた部分を根拠にして、「エーメール」の人物像をとらえる。 (5) 「僕」は「エーメール」に対してどのような感情をもっていたか考える。	ワークシート 蛍光ペン	印を付けたところを発表させ、全員で印を付けた場所について確認する。 印を付けた記述を手掛かりにして、「ちょう集めに夢中だった「僕」の様子をとらえさせ、その様子から「僕」がどんな少年だったかを考えさせる。 印を付けたところを発表させ、全員で印を付けた場所について確認する。 蛍光ペンで印を付けた記述を手掛かりにして、「エーメール」の人物像をとらえさせるようにする。 〔手掛かりとなる記述〕 ・模範少年 ・こっぴどい批評家 ・非の打ちどころがない 手掛かりとなる記述は、「僕」の視点から書かれたものであることを押さえておく。 「僕」の「エーメール」に対する気持ちをとらえさせる。 〔手掛かりとなる記述〕 ・ねたみ、嘆賞しながら彼を憎んでいた。	イ - 1 人物の言動の描写から、「僕」や「エーメール」の人物像をとらえている。 【ワークシート の記述】 自分の言葉で書けない場合は、文章中の言葉を使って人物像や心情をまとめるよう指示する。
	ま と め	4 本時の振り返りをし、自己評価をする。 5 次時の見通しをもつ。	学習計画表	本時の学習内容を振り返らせ、学習計画・自己評価表に記入させる。 「僕」がクジャクヤママユを盗んだときの気持ちを考えることを告げる。

(1) 指導目標

クジャクヤママユを盗んだときの「僕」の心情を読み取らせる。

(2) 展開

	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 Cの状況にある生徒への手立て
導 入	1 本時の目標を確認する。 2 「僕」と「エーメール」の関係を思い出す。	学習計画・自己評価表	本単元、本時の目標について確認させる。	
クジャクヤママユを盗んだときの「僕」の心情を読み取る。				
展 開	3 この場面の内容を読み取る。 (1)クジャクヤママユを手に入れたときの気持ちを、文章中から抜き出す。 (2)クジャクヤママユを手に入れるまでの「僕」の心情が分かる記述に印を付ける。 (3)(2)の記述に対する「僕」の心情を考える。 (4)盗みを自覚し、クジャクヤママユをつぶすまでの「僕」の心情が分かる記述に印を付ける。 (5)(4)の記述に対する「僕」の心情を考える。 (6)「僕」の心情の変化をワークシートに心情曲線として書き込む。	ワークシート	「大きな満足感」という言葉を提示し、この言葉の前後の心情の変化を読み取らせることを知らせる。 「僕」の気持ちの高まり、変化に注目させる。 〔気付かせたい気持ち〕 ・興奮して ・待ちきれない ・紙切れを取りのけたい ・宝を手に入れたい 印を付けたところをクラスで発表させ、「僕」の気持ちの高まりや変化が分かることを確認する。 印を付けた記述を基にして、「大きな満足感」までの「僕」の心情をワークシートにまとめて記述させる。その際、自分の言葉を使って書くように指示する。 「僕」の気持ちの変化に注目させる。 〔注目させたい記述〕 ・良心が目覚めた・下劣なやつ ・恐ろしい不安・冷たい気持ち ・びくびくした ・僕の心を苦しめた	イ-1 文章の記述を根拠として、登場人物の心情を自分の言葉で表している。 【ワークシートの記述】 「どきどき」や「びくびく」などの擬態語を探させ、それをもとに心の声を考えさせる。 自分の言葉で書けない場合は、文章中の言葉を使って人物像や心情をまとめるよう指示する。
ま と め	4 本時の振り返りをし、自己評価をする。 5 次時の見通しをもつ。	学習計画・自己評価表	本時の学習内容を振り返らせ、学習計画・自己評価表に記入させる 「僕」が「エーメール」の家に行き、告白する場面を読み取らせることを告げる。	

5 - 5 5 / 9時の指導計画

(1) 指導目標

「僕」が「エーミール」の家に行ったときの2人の心情を読み取らせる。

(2) 展開

	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 Cの状況にある生徒への手立て
導 入	1 本時の目標を確認する。 2 「僕」が「エーミール」の家に行くまでの心情を振り返る。	学習計画・自己評価表	本単元、本時の目標について確認させる。	
	「僕」が「エーミール」の家に行ったときの2人の心情を読み取ろう。			
展 開	3 場面の内容を読み取る。 (1)「僕」が「エーミール」の家に行くまでの「母」の様子を読み取る。 (2)「僕」と「エーミール」について書かれているところに、蛍光ペンで印を付ける。 (3)「僕」に対する「エーミール」の心情を考える。 ・「僕」の告白を聞いた後の書かれていない心情を想像して書く。 (4)「エーミール」に対する僕の心情を考える。 ・「僕」の気持ちが変化する言動を押さえて、それぞれの記述に対する「僕」の心情を自分の言葉で書く。	ワークシート	責任を取るよう促す「母」の言動をとらえさせる。 印を付けた部分を発表させて学級全体で確認する。 起こった出来事や「僕」の言動、エーミールの様子を表した記述から、エーミールの僕に対する気持ちを想像させる。 [予想される生徒の反応] ・人のちょうを盗んで、つぶすなんてひどいやつだ。 「僕」に関する記述を根拠に、気持ちをそれぞれ考えさせる。 [予想される生徒の反応] 記述ア ・エーミールにだけは自分の過ちを知られたくない。 記述イ ・状況を話せばわかってくれるかもしれない。 記述ウ ・僕の大切なもので許してもらおう。 記述エ ・どうしてわかってくれなんだ。 ・僕の犯した罪は償うことできない。	ウ - 1 人物の態度や心情を表す語句に注意して、登場人物の気持ちを考えている【ワークシートの記述】 「軽蔑」「あなどる」などの言葉は、クラス全員で意味を確認する。 イ - 1 文章の記述を根拠として、登場人物の心情を自分の言葉で表している。【ワークシートの記述】 記入例を具体的に示し、文章の記述から想像できることを、自分の言葉で書いてよいことを知らせる。
ま と め	4 本時の振り返りをし、自己評価をする。 5 次時の見通しをもつ。	学習計画・自己評価表	本時の学習内容を振り返らせ、学習計画・自己評価表に記入させる ちょうをつぶす場面について考えることを告げる。	

〔注目させたい記述〕

ア - 僕は出かける気になれなかった。
 イ - 詳しく話して説明しようとした。
 ウ - 僕のおもちゃやちょうを全部やると言った。
 エ - 僕はすんでのところであいつののどぶえにとびかかるところだった。

(1) 指導目標
 ちょうをつぶしたときの「僕」の心情を読み取らせる。

(2) 展開

	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 Cの状況にある生徒への手立て
導 入	1 本時の目標を確認する。 2 「エーミール」の家で話したときの、「僕」と「エーミール」の心情を確認する。	学習計画・自己評価表	本単元、本時の目標について確認させる。	
ちょうをつぶしたときの「僕」の心情を読み取ろう。				
展 開	3 の場面の最後の段落で、「僕」がちょうを一つ一つ取り出して押しつぶす情景を確認する。 4 の場面の最後の段落の部分から「僕」の心情を考える。 (1)個人で、ワークシートのふきだしに「僕」の心情を考えて書く。 (2)グループで、「僕」の心情について交流する。 (3)グループで話し合ったことを発表する。 5 の場面(現在の場面)の、客の思い出と重ね合わせる。	ワークシート	「エーミール」のところから帰った後の描写に注目させ、場面を想像させる。 [注目させたい描写] ・母の様子 ・遅い時間、闇の中 ・「一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまった。」 「一度起きたことは、もう償いのできないものだ」ということを悟った後の少年の行動であることを確認し、その行動に込められた「僕」の心情を考えさせる。 の場面の記述から分かる「僕」の心情について意見を交流させることで考えを広げさせ、過去の場面から読み取れることをまとめさせておく。 の場面(現在の場面)を振り返り、客が話した思い出であることを確認させて、表現の特徴や工夫に気付かせる。 [表現の特徴や工夫の例] ・現在 過去 ・言葉の対応 ・心情を表す色	イ - 1 文章の記述を根拠として、登場人物の心情を自分の言葉で表している。 【ワークシートの記述】 注目させたい描写から考えられる心情について、具体例を挙げて説明する。
ま と め	6 本時の振り返りをし、自己評価をする。 7 次時の見通しをもつ。	学習計画・自己評価表	本時の学習内容を振り返らせ、学習計画・自己評価表に記入させる。 表現の特徴や工夫について考えることを告げる。	

(1) 指導目標

文章の構成や展開 , 表現の特徴や工夫をとらえ , それについての自分の考えをもつ。

(2) 展 開

	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 C の 状 況 に あ る 生 徒 へ の 手 立 て
入 導	1 本時の目標を確認する。	学習計画・自己評価表	本単元 , 本時の目標について確認させる。	
	2 ワークシート に記入している表現についての気づきを確認する。			
表現の特徴や表現の工夫について考えよう				
展 開	3 生徒用手引きを参考にして , 内容の読み取り方や表現の特徴とその効果のとらえ方について知る。	補助資料 (「文学的な文章の特徴」)	補助資料を利用し , 表現の特徴を探す際の視点を説明し , 表現の特徴とその効果について考えさせる。	
	4 「少年の日の思い出」の表現の特徴や用いられている表現の工夫とその効果について考える。 (1)個人で気付いたことをワークシートにまとめる。 (2)表現の特徴 , 表現の工夫 , その効果について班で話し合う。 (3)表現の特徴 , 表現の工夫の効果について班で話し合った意見をまとめ , 発表する。 (4)筆者の表現の特徴 , 表現の工夫 , 効果について交流で深まったことをワークシートにまとめる。	ワークシート	表現の特徴などを文章でまとめさせる。 〔気付かせたい表現の特徴の例〕 ・僕の目線で物語がすすむ。 ・現在と過去の場面が結び付いている。 ・僕とエーミールの人物像が対照的である。 ・外の暗さ(闇)が効果的に使われている。 表現とその効果についてそれぞれ発表させる。 話し合った後 , 表現の特徴や工夫が , どのような効果をあげていたり , どのような意図で用いられているのかを自分の言葉でまとめさせる。	
				イ - 2 文章の構成や表現の特徴について自分の考えをもっている。 【ワークシートの記述・交流での発言】 ワークシートで , 話し合いのときの視点を説明して交流に参加させる。
ま と め	5 本時の振り返りをし , 自己評価をする。	学習計画・自己評価表	本時の学習内容を振り返らせ , 学習計画・自己評価表に記入させる	
	6 次時の見通しをもつ。		大人になった「僕」と「エーミール」に対談をさせることを告げる。	

(1) 指導目標

文章の記述を根拠に、思考力や想像力を働かせながら登場人物の心情をまとめさせる。

(2) 展開

	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 Cの状況にある生徒への手立て
導 入	1 本時の目標を確認する。 2 現在の場面につきがあったことを示唆し、仮想対談の予告をする。	学習計画・自己評価表	本単元、本時の目標について確認させる。	
	文章の記述を基に、思考力や想像力を働かせて仮想対談を考えよう			
展 開	3 現在の場面につきがあったという想定で、登場人物になりきって仮想対談の内容を考える。 ・ワークシートのA～Eの部分の対談内容を考えて書き込む。 4 できあがった仮想対談をグループで読み合う。 5 友達の考えた対談内容を参考にして、自分の考えたものを見直す。	ワークシート ワークシート～	これまでに読み取ってきたこと、考えたことをワークシート～の記述で振り返らせ、その記述を根拠にして対談内容を考えさせる。 内容や表現について参考になる部分に着目しながら、友達の仮想対談を読むように指示する。 個人の読み取りを基にして自分の考えをもち、その上で他者の考えと比較させることで、よりよい内容や表現に気付かせる。 内容や表現について参考になる部分があれば付け加えさせる。	イ-1 文章の記述を根拠にして、仮想対談の内容を考えている。 【ワークシート の記述】 ワークシート～までの記述を利用し、友達の意見も参考にして書き込むように指示する。
	6 見直した対談内容を基に、2人が最後に別れる場面の会話とその会話に合う情景を考える。		見直した対談内容を基にして、2人が別れる結末の場面がどうなるか考えさせ、各自が想定した結末に合う会話と情景をまとめさせる。 情景を考える際には、7/9時に学習した表現の特徴や工夫を利用するように指示する。	
ま と め	8 本時の振り返りをし、自己評価をする。 9 次時の見通しをもつ。	学習計画・自己評価表	本時の学習内容を振り返らせ、学習計画・自己評価表に記入させる 最後の情景について考えることを告げる。	

(1) 指導目標
表現の特徴や工夫，その効果についての考えを広げさせる。

(2) 展開

	学 習 活 動	教 材 資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 方 法 Cの状況にある生徒への手立て
導 入	1 本時の目標を確認する。	学習計画表	本単元，本時の目標について確認させる。	
	2 前回作った仮想対談の内容を思い出す。		クラスで作った仮想対談を印刷して配布し，内容を確認させる。	
仮想対談を通して、文章の内容や表現の仕方についての考えを広げよう				
展 開	3 各自が考えた別れの場面の会話と情景を発表する。	ワークシート	各自が考えた最後の会話と情景について発表し合い，友達の考えと自分の考えを比べさせる。	
	4 各自が考えた別れの場面の会話と情景について，グループで意見の交流をさせる。		<p>想定した別れの会話に最も合っている情景描写を選ばせ，なぜそう判断できるのか話し合うことで意見の交流をさせる。</p> <p>の場面を想起させ，行動の描写や情景が心情と深くかかわっていることを思い出させる。</p>	
開	5 グループで代表を一人決め，最後の会話と情景を発表する。		<p>学習の参考になる作品を選ばせる。</p> <p>話し合いや発表を聞いて，自分の作品に加筆・修正をさせる。</p>	<p>イ - 2 最後の2人の対談に合うような情景を考えている。</p> <p>【ワークシート の記述】</p> <p>参考となる情景描写を具体的に提示し，これまでの学習を想起させる。</p>
ま と め	8 学習の振り返りを行う。	学習計画・自己評価表	学習計画・自己評価表を完成させる。	
	9 本単元で学習したことを再確認する。		他の文学的な文章を読む際にも，記述を根拠にして，心情を読んだり，表現の特徴を考えたりすることが大切であることを伝える。	